

橋下市長 検討を表明

大阪市の橋下徹市長は6日、大阪市役所で定例会見を行い、不要不急の鉄道新線「なにわ筋線」について「行政的な手続きに乗っけていく」と述べ、正式に大阪府と共同で検討していくことを明らかにしました。

不要不急の大阪「なにわ筋線」

「なにわ筋線」については、新大阪駅からJR難波駅や南海難波駅を結ぶ案などが示されており、関西空港へのアクセス改善が狙いです。橋下



氏が「大都市として必要な都市インフラの中核」とする大阪駅北側の「うめきた」地域を経由する

計画です。橋下氏は「梅田を起点に考えると短縮は7、8分」「新線が必要なのか」という議論もあるが、外国人観光客を呼び込んでくるのが日本の大きな成長戦略のひとつであることは間違いないなどと述べ、新線建設を正当化しました。財源には、地下鉄民営化が実現した際の株式売却益などを示唆しました。

日本維新の会共同代表の橋下

徹大阪市長は6日、同市内で開かれた大阪府・市と関西経済3団体主催の新年互礼会でのあいさつで、市営地下鉄の民営化など関西財界の長年の要求を列挙した上で「維新の会、橋下徹、嫌いで結構。ただ、この方向性に向かって、どうかお力をお貸しください」と懇願しました。

都構想実現へ懇願

関西財界に「お力を」

発▽不要不急の「なにわ筋線」整備に向けた正式検討▽淀川左岸線の延伸▽カジノ施設を含む統合型リゾート施設の誘致の7項目を列挙。財界型の都市改造を強力に推進する姿勢をアピールしました。

会場での囲み取材では「経済界は政治的に中立で結構だが、大阪都構想にはぜひ協力をいただきたい」と話しました。

橋下氏は、わずか1分20秒ほどのスピーチの中で▽市立病院廃止などの口実としてきた二重行政の解消や府市統合▽市水道局の民営化▽市営地下鉄・バスの民営化▽JR大阪駅北側の再開発地区「うめきた」の2期開

橋下氏は12年の互礼会では「道州制」を掲げ、関西財界に対して「選挙に足を踏み入れてほしい」（囲み取材）と要求。13年には、関西財界に「僕の手綱を引いて」と秋波を送っていました。